

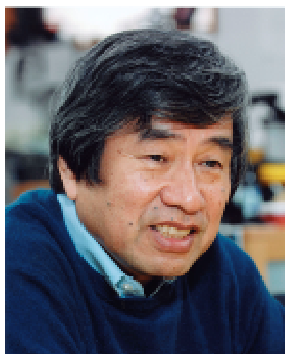
復興に駆ける！

第 23 号
平成 26 年 4 月 17 日発行
岩手県立
生涯学習推進センター
TEL 0198 - (27) - 4555

◇ 今回はこの方を紹介します。

非認証NPO きんもくせい

小林 郁雄 代表



小林代表

「まちづくり株式会社コー・プラン」取締役アドバイザーでもある小林代表は、これまで、高度経済成長期の臨海開発、密集街区整備など都市計画に関わる様々な仕事に携ってきた。平成 7 年、阪神・淡路大震災に遭遇した。大震災では、建物の倒壊と火災による犠牲者が多く、耐震・災害に強いまちづくりをどのように行っていくかが課題となった。震災前から何らかのかたちで被災地に関わっていたまちづくりプランナー、建築家、大学研究者等が集まり、自らの

手で復興させたいという思いから、震災 10 日後に「阪神大震災復興市民まちづくり支援ネットワーク」を結成した。その趣旨に賛同して加わったメンバーが、担当地域に分かれて、地域住民とこれからのまちづくりについて何度も話し合いの場を持った。そして、話し合いで出されたことをまとめ、地域ごとの「瓦版」を作成し配布した。小林代表も「非認証NPOきんもくせい」を立ち上げ、担当した地域むけの「瓦版」を 2 年間で 42 号まで発行した。2 週間に 1 度は発行していたことになる。これ以外にも、小林代表は平成 7 年 7 月に発足した「被災者復興支援会議」のメンバーとして、行政関係者と熱い議論を何度も交わし、住民の声を伝える役割を担ったという。

小林代表は、南芦屋浜災害復興公営住宅の計画にも座長として携り、入居予定者を一年前から集め、共同空間の利用の仕方、入居後の環境維持等について計 7 回のワークショップを開催した。そして、緑地に予定されていた場所を市民農園にしたいという入居予定者のアイデアを実現したのである。「農場は、水やりや草むしりなど面倒な作業が多いが、それをわざと仕掛けることで、住民が集まり、直に顔を合わせることで、地域コミュニティが育まれていくのだ。」と小林代表は話してくれた。本県の災害公営住宅建設においても大事な視点であると感じた。



瓦版を集め、まとめた本

連絡先

非認証NPOきんもくせい

TEL 078-842-2311

Email : ikuo-ko@kcc.zaq.ne.jp

(※ 3 月 6 日、神戸市灘区の事務所にて三橋が取材)